

## 第1回 下新川海岸マスタープラン検討委員会 議事要旨

第1回委員会における各委員からの主な意見	〔検討内容〕
1. その地先海岸を地元がどう利用するのかという姿を踏まえつつ、新しい管理のあり方をみんなで提案していく。海岸侵食の原因、その有効な対策に言及しつつ、少ない費用でこの海岸を維持管理できる姿に持っていきたい。	○ 左記の意見により、地域住民の海岸の利用実態や海岸に対する思いを知る為に下記の調査を実施した。
2. このマスタープラン策定の意義は「海岸を防護と利用を一体とした将来像をつくること」と考える。地域の海岸利用を委員会の場で明らかにして議論する必要がある。	○ 調査項目 ・ 各地区の海岸利用状況及び海岸に対する思い アンケート調査 4,095回答/6,317配布 ・ 海岸の利用状況を調査
3. 下新川海岸にとって一番大きな課題は依然として防護であろう。利用というよりは、この海岸と一緒に生きていくという視点から議論する必要がある。	利用実態調査 125回答(7、8、10月実施)
4. 最初にどういう海岸を目指すのかを、マスタープランとしてはっきり提示する必要がある。	・ 市町の計画 各市町にヒアリング調査
5. 地域の海岸として、どうありたいのかという地域住民の視点が重要である。	
6. マスタープランを検討する最初の段階で海岸利用の実態報告がされるべきである。	
7. 地元住民の意見を反映する形、地元の人たちが「一体この海岸に対してどういう思いを持って利用するか」が示されないとこの海岸は維持管理できない。現在は施設整備については「公助・共助・自助」のうち、公助が非常に大きなウエートを占めているが、海岸のあるべき姿を地元で末永く維持していくためには、自助、共助の比率を増やすような形(あるべき割合は公助が1、共助が2、自助が7程度)に持っていく必要がある。	
8. 国交省と農水省の管轄する海岸が縦割り行政の結果として分割管理されている。この委員会では一連の漂砂系として議論したい。	第3回、第4回委員会で土砂動態についての調査結果を報告し、その調査結果を基に検討予定。また関係者の役割分担について検討予定。
9. 下新川海岸が富山の財産として維持発展できるようにするために、どうすべきかという計画としていきたい。国、県、地元の市町村の役割も明記したい。	

## マスタープラン検討の全体フローと第2回委員会の検討項目

	検討項目	細目	具体的な検討内容	マスタープランへ記載することにより期待する効果	
第1回委員会	1. マスタープランの位置付け	上位計画の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>富山県海岸保全基本計画に基づき検討する。</li> <li>土砂管理基本方針の検討区間は境川～片貝川の区間とする。</li> </ul>		
		委員会の検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 下新川海岸の将来形の検討</li> <li>② 土砂管理に関する基本方針の検討</li> <li>③ 蓄積された技術の情報伝承、発信手法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 効率的な事業執行</li> <li>② 土砂の効率的な利用</li> <li>③ 海岸の技術の発展への寄与</li> </ul>	
	2. 下新川海岸の現状と課題	下新川海岸の概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>地形、気候、人口、土地利用、産業、交通、災害の歴史、海岸事業の沿革</li> </ul>	基本事項の確認
		防護面の現状と課題	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>下新川海岸の特性（扇状地の成り立ち、河口の固定、漂砂の動きの変化</li> <li>各地の侵食、越波（打上高・地形変化解析図）、被災状況</li> <li>これまでの下新川海岸における保全の取り組みについて</li> </ul>	長期的に侵食海岸であることの理解
			課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化、沿岸漂砂の減少、事業費の減少により施設整備が進まないことを説明</li> </ul>	現状における課題について認識を得る
		配慮すべき環境および海岸の利用状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>貴重な自然など、環境面で配慮すべき事項</li> <li>社会特性と海岸の利用、市町の計画等</li> </ul>	海岸保全施設整備計画を検討する際の環境や利用面への配慮事項について共通認識を持つ
海岸情報の現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>CCTV、海象観測所、河川情報システム</li> </ul>	現状における課題の抽出し、情報伝達のあり方を考える		
第2回委員会	3. 背後地からの情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>海岸利用の実態</li> <li>海岸に対する思いなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民の海岸の利用実態、海岸にもとめること、問題点、何ができるか、などをアンケートにより調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民の海岸の利用実態の把握</li> <li>地域住民の海岸への思いの確認</li> </ul>	
	4. 下新川海岸の将来形	海岸保全施設整備計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査結果などから考えられる海岸保全施設について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区海岸保全にあたっての考え方の明確化</li> </ul>	
第3回委員会	5. 土砂管理に関する基本方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>各工区の施設配置計画を説明</li> <li>概ね30年間で整備することが可能な施設を提案</li> <li>工区の移管について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優先すべき事業（地域）についての合意</li> <li>段階的な整備計画（案）の合意</li> </ul>	
		連続する沿岸漂砂の適正な管理手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおまかな下新川海岸全体の土砂収支図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>汀線維持に必要な土砂量と各地先で必要な漂砂量についての認識</li> <li>各管理者との協力と実施内容についての共通認識</li> </ul>	
第4回委員会	6. 蓄積された技術情報の伝承、発信	関係者の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>海岸保全施設の整備計画を実施するにあたり、必要となる国、地方自治体および住民の役割分担の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスタープランに示された海岸を実現していただくため必要な関係者同士の役割の明確化と、協力要請</li> </ul>	
		手法の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>当面は事務所ホームページで発信するが、電子ミュージアム等の発信手法も検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスタープランの中での情報発信の提案、海岸の技術の発展への貢献の提案</li> </ul>	